

北海道浮魚ニュース

平成 17(2005)年度 12 号 (通巻 No.201)

2005 年 8 月 12 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成17年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

8月9～10日に塩釜市において、平成17年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁 URL : <http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>

【漁況予報】 (図1参照)

予測期間 : 2005年8月中旬～12月

対象海域 : 北西太平洋 (道東沖から常磐沖)

対象漁業 : サンマ棒受網

魚体 : 大きさは肉体長 (体長) で表示し、便宜的に大型魚 (29cm以上)、
中型魚 (24～29cm未満) および小型魚 (20～24cm未満) と区分した

来遊量

来遊量は昨年をやや上回る。

魚体

漁期を通じて大型魚主体の漁獲となる。

漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は、道東から色丹島沖に形成される。漁場の南下は早く、三陸沖の漁場形成は9月中旬になると予測される。

解説

来遊量

6～7月に145°E～165°Wの海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールを用いて漁獲調査を行った結果、155°E以西にはサンマが少なく、155°～171°Eでは連続的に分布が見られたが、175°E～180°での漁獲量は少なかった。広域調査を行った2002年以降で比較すると、2005年のトロール有漁点当たりの漁獲尾数は892尾となり過去最低値であった。しかし大型魚が漁獲の大半を占めたために、漁獲重量は106kgであり、昨年と同程度(106kg)であった。漁獲の主対象となる中型魚以上の資源量(177°W以西)は、359万トンであり、2003年(666万トン)と比較すると54.4%と大きく下回ったものの、2004年(275万トン)の130.5%となりやや上回った。

7月に42°30'～46°30'N、153°30'～162°30'Eの海域で北海道立釧路水産試験場北辰丸によって行われた流し網調査では、総漁獲尾数、流し網1反あたりの漁獲尾数ともに2004年を上回った。

一方、沿岸を北上した魚群は、前述の東北区水産研究所のトロール調査および日本沿岸で行われた北海道立釧路水産試験場北辰丸、岩手県水産技術センター岩手丸、宮城県水産研究開発センター拓洋丸、宮城県産業経済部新宮城丸、福島県水産試験場いわき丸、茨城県水産試験場いばらき丸、千葉県水産総合研究センター千葉丸の漁期前調査で昨年よりは漁獲および魚群の

発見は多かったものの、沖合に比較すると相対的にその量は少なかった。

以上より、本漁期も沖合から来遊する魚群が漁獲の主体となり、調査時の沖合の資源量は昨年を少し上回ったことから、来遊量は昨年をやや上回る。

魚体

東北区水産研究所の6~7月の調査結果から、調査海域全体で大型魚の割合が高かった。このうち177°W以西で漁獲されたサンマ大型魚の割合は85%であり、2002年以降最も高い割合となった。また、7月の北海道立釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果でも、大型魚の割合が60%と高かった。以上から、今年の中・小型魚の割合が低く、漁場に来遊する魚群は漁期を通して大型魚主体である。

漁期・漁場

東北区水産研究所、北海道立釧路水産試験場の漁期前調査結果ではサンマは表面水温10前後で多く漁獲された。8月上旬現在、表面水温10の水温帯は択捉島南東へのびている。道東沖には暖水塊があるが、親潮域の水温は昨年より低めであることから、大型船出漁後の初期漁場は道東沖の暖水塊の北側~色丹島南沖に形成される。

親潮第1分枝の張り出しはやや北偏ながらその南に冷水域があること、三陸沖の暖水塊は北東へ移動すること、津軽暖流の東方への張り出しは平年並であることが予測されており、サンマの南下を阻む要因はみられない。従って魚群の南下は早く、三陸沖(41°N以南、143°E以西)における初漁場は9月中旬に形成される。また、三陸南~常磐沖には継続して冷水域が存在するので、常磐沖への南下も早い。

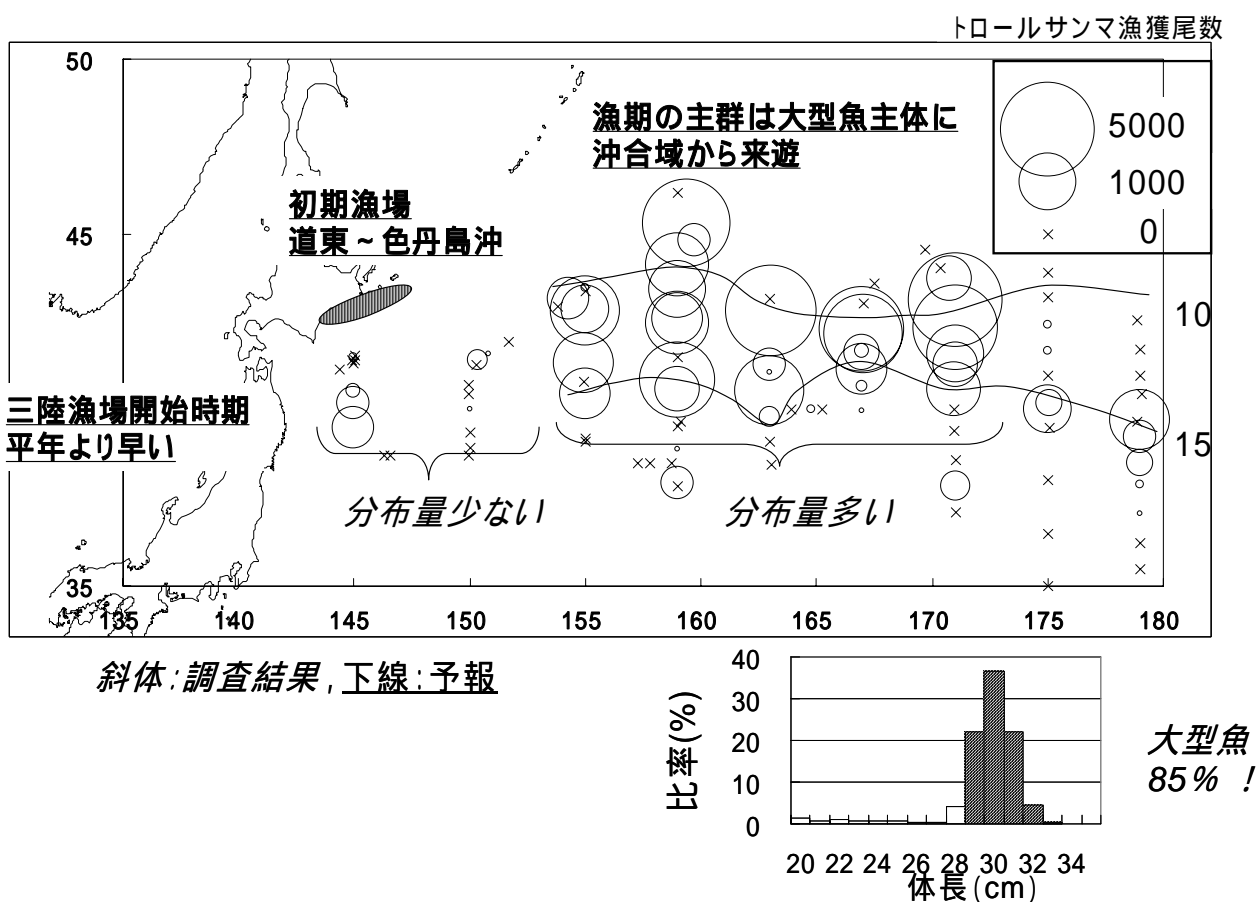


図1 2005年サンマ漁期前調査結果のまとめ.

図中の「○」は、調査点毎のサンマの採集量を示し、円が大きいほど採集量が多い。

「x」は、採集がなかったことを示す。

体長頻度分布のグラフは、縦軸が頻度(%)、横軸が肉体長(cm)を示す。

【海況予報】（図2参照）

予測期間：2005年9月～11月

対象海域：北西太平洋

黒潮

近海の黒潮の北限位置は、平年並～やや南偏（ $35^{\circ}30'N \sim 36^{\circ}30'N$ ）で推移する。

黒潮系暖水

黒潮系暖水の北限位置は、近海で南寄りに推移する。

暖水塊

釧路南東沖合、三陸沖の暖水塊は北東に、常磐沖の暖水塊は北西に移動する。

親潮

親潮第1分枝の張り出しは、やや北偏（ $41^{\circ}N$ 以北）で推移し、三陸～常磐近海に冷水域が残る。

親潮第2分枝の張り出しは、平年並～やや北偏（ $39^{\circ}30'N$ 以北）で推移する。

津軽暖流

津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並（ $143^{\circ}10'E$ 付近まで）で推移する。

「近海」は $146^{\circ}E$ 以西、「沖合」は $146^{\circ}E$ 以東を表す。

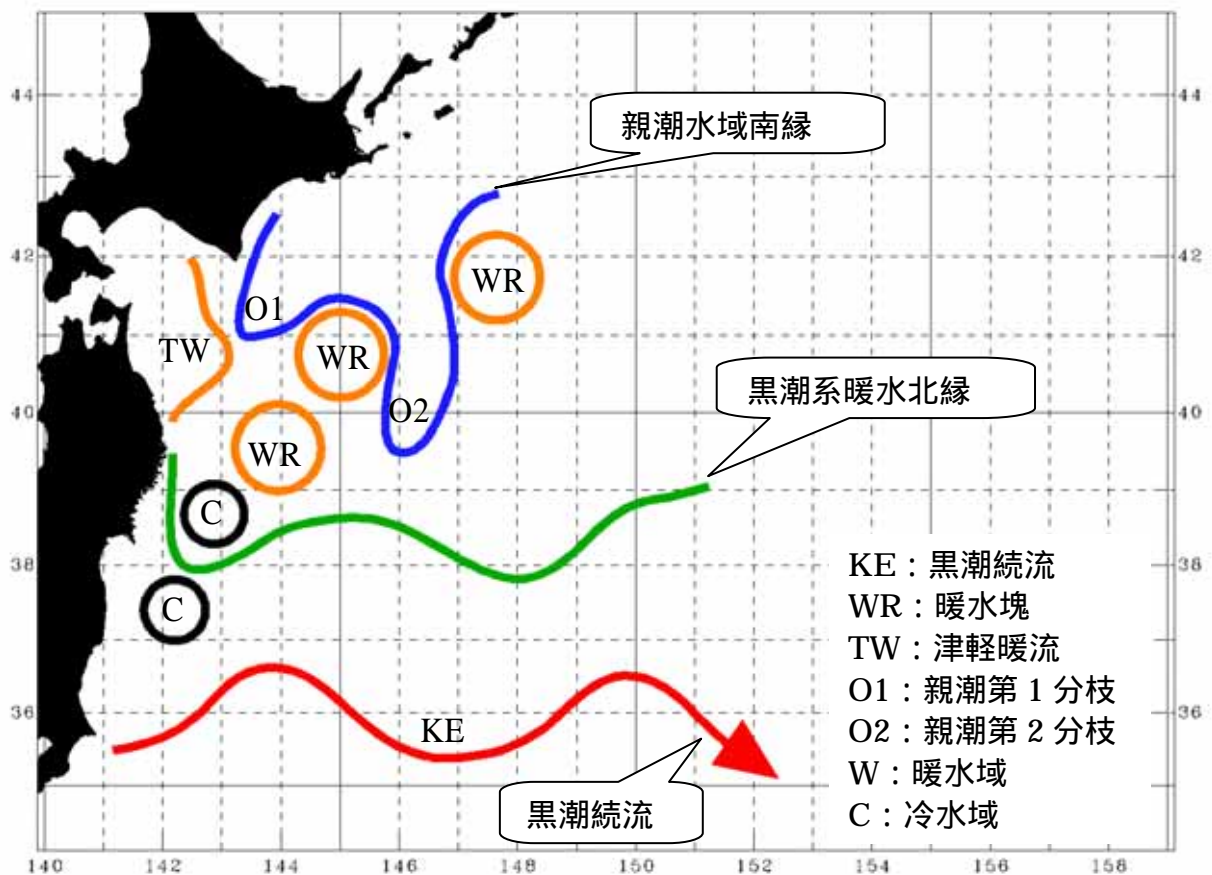


図2 海況の今後の見通し(9月下旬を想定)

(文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)